

グリーンたいむ

2022年1月17日週

vol.
251



発行: グリーンコープ生活協同組合くまもと <http://greencoop-kumamoto.jp/>

あけましておめでとうございます



今年はコロナ禍に負けないように、みんなで力を合わせてグリーンコープ運動をすすめていきます。

理事長、各地域本部の地域理事長、各委員会の委員長および副委員長が、2022年にかかる思いを短歌で詠みましたので、お届けします。



寒くても
牛さん頑張る
びん牛乳
おいしく飲めば
みんな幸せ

専務理事 上村 猛



心新たに
二つの柱
歩み出す
心を合わせて
夢がたちに

理事長 高濱 千夏



カタログに
おいしいものが
いっぱい
今年も無理かも
ダイエツト

県央東地域理事長
株元 知子



自分自身も
成長のとき
新しい
夢に向かって
今、走り出す

県央西地域理事長
八木 佳奈



ありがとう
すごいねさすが
大好きよ♡
言うとおったか
ぼかぼか言葉

県南地域理事長 馬淵 早苗



本年も
出会えばいい
希望の光
色んなことに
トライしよう

利用普及推進委員長
坂田 未来



大切な
家族の笑顔と
健康を守るため
我が家は
これから
グリーンコープ

利用普及推進副委員長
馬場 未来



広げたい!
グリーンコープ
の運動を
すべてつなげる
SDGsへ

組織・環境委員長
森田 弓沙



新年に
心に誓う
レッツ寅イ
ふだんの
くらしを
しあわせに

福祉委員長 小林 香織



地域組合員総会に参加しましょう!

2022年2月7日(月)～3月4日(金) 全34地区で開催します



地域組合員総会は、組合員主権を貫くために、生協の三原則「出資・利用・運営」を組合員一人ひとりが理解して、自らの意思で決議する場です。また、組合員にとって一番身近な地区運営に関わって活動や事業の内容を知り、決定に参加できる大切な場です。ぜひ参加しましょう。

詳細については地区から届けられる案内状をご覧ください

も
く
じ

1: 新年の挨拶、地域組合員総会案内 / 2: 2021年度福祉活動組合員基金後期助成団体決定、助成団体報告会案内 / 3: 遺伝子組み換え作物反対運動関連 / 4~5: グリーンコープ生協くまもと20周年記念企画~大橋成子さんとの対談インタビュー~ / 6: わたしとグリーンコープ、こんにちは! ワーカーズです、市民電力関連 / 7: 「労働協同組合ワーカーズ・コレクティブ ヒトハレ」誕生!、みずほ銀行より配食用小型電気自動車が贈呈されました / 8: 楽しかったよ! 「みかん招待園」、カタログGREEN回収率報告、おたより募集、編集者だより



「遺伝子組み換えとゲノム編集についての学習会」 & 「映画『種とゲノム編集の話』 上映会」を開催しました

2021年5月、ゲノム編集されたトマトの苗が国内で希望者に無償配布されました。政府はゲノム編集食品について、安全性審査も表示も必要ないとしています。

2021年10月5日(火)、ジャーナリストで「食と農から生物多様性を考える市民ネットワーク」共同代表でもある天笠啓祐さんを講師に迎え、オンラインでゲノム編集食品の現状について学習会を行いました。その後、映画「種とゲノム編集の話」上映会を開催しました。(参加者110人)

学習会と上映会の報告

初めに、天笠先生に遺伝子組み換えとゲノム編集について学習会をしていただきました。「サナテックシード(株)」が開発したゲノム編集トマト(シシリアンルーージュハイギャバ)が2021年に熊本で栽培され、9月に「パイオニアエコサイエンス(株)」がネット販売を始めるというニュースが出たばかりで参加者の関心も高く、ゲノム編集食品の危険性や問題点を話していただきました。他にも日本では、飼育期間を短くできるようにゲノム編集した養殖の鯛やフグなどが次々に研究されていて、行政は規制も表示もしない方針で、知らない間にゲノム編集した食品が食卓に上り私たちの口に入る可能性があります。熊本に住む私たちは、どのように「ゲノム編集食品反対」の意思表示や行動をすればいいのか、今後みんなで検討していきたいと思います。

次に、映画「種とゲノム編集の話」上映会では、種の交換をすることの重要性や、形が良いものだけを選ばずに不揃いなものの種も育てていくことで、より強い作物になることを学びました。農作物は私たちの体を作る大切な要素です。遺伝子組み換えやゲノム編集食品に反対し、はっきりしないもの、きちんと調査ができていないものは食べたくないことを訴え、子どもたちの健康や未来のためにも、今後も反対運動を続けていきたいと思いました。

学習会で出されたQ&A

当日出された質問で、時間の都合上お返事ができなかったものに、天笠先生から回答をいただきました。

Q. ゲノム編集されたトマトの苗は、自分で増やすことも可能なのでしょうか？

また、種を採取し育てることも可能ということでしょうか？

A. 今年5月に実験的に種苗の無償配布が行われました。その後、種苗が販売されたという話は聞きませんので、今のところ自分で育てることはできません。販売されているトマトから種取りを行い、撒くことはできます。

Q. すでにゲノム編集の鮭などを食べている可能性はありますか？

A. 日本ではまだ、この遺伝子組み換え鮭に関しては承認されていませんので、もし流通しているとすると違法になります。しかし、加工されて入ってきてしまうと分かりません。その点から言えることは、加工された鮭で、米国・カナダ産は気を付けた方がいい、ということになります。

Q. 日本でのグリホサート、ラウンドアップの現状はどのようになっていますか？

A. グリホサートは日本でも最も多く売れている除草剤です。また数多くのグリホサート製品の中でも、ラウンドアップは最も多くの量が販売されています。ホームセンターで大量に販売されています。また農協でも多く販売されています。困ったものです。

2022年度 募集 自生遺伝子組み換えナタネ汚染調査をしてみませんか!!

自生遺伝子組み換えナタネ汚染調査活動を、2月から3月にかけて実施します。道路わきにポツンと咲いている菜の花を見つけて、実際に確かめてみませんか？(調査時間約10分)

◆募集人数：10人程度

◆調査要綱：自生している菜の花を採取し、簡易調査キットを使用して遺伝子組み換えナタネかどうかを調べます。事務局が出向き一緒に調査を行いますので、気軽にお申し込みください。

◆申込締切：2022年2月25日(金)

◆申込先：本部組合員事務局(菊川) ☎096-324-8145(月～金 10時～16時)



私たちの100円は、 身近な地域福祉に活かされています

2021年度 福祉活動組合員基金 後期助成団体が決定しました

グリーンコープが参加型地域福祉をすすめていくために取り組んでいる「福祉活動組合員基金(通称100円基金)」は、グリーンコープの福祉事業をはじめ、地域の福祉活動に取り組む団体(100円基金を拠出している組合員個人および、組合員が所属する団体)に助成されるなど、地域福祉の財源として有効に活用されています。

2021年度の後期助成団体が決定しましたので、お知らせします。



申請団体		助成金額	活動内容と主な用途
地域団体	特定非営利活動法人 NPO くまもと未来	150,000円	スタッフ人件費、ホームページ制作費
	こどものゆめまもる基金	200,000円	活動費、図書教材費、消耗品費
グリーンコープ生協くまもと理事会		300,000円	一般社団法人グリーンワークスF P「円縁」2020年度運営費
		318,716円	「らくらく家計簿クラブ」2020年度運営費
社会福祉法人グリーンコープ		1,278,132円	「福祉センター三里木」建設に係る借入金 2021年度利息
		4,853,550円	「子育てサポートセンター」2021年度運営費等
合計		7,100,398円	

「一般財団法人グリーンコープ生協くまもと福祉活動組合員基金 2021年度 助成団体報告会 ～あなたからの大切な100円で身近な人のシアワセ(福祉)を～」 を開催します

組合員の皆さんが月毎に拠出した大切な100円を財源に、グリーンコープの地域福祉活動と地域で組合員が取り組む活動に、2021年度も助成しました。その助成の内容について報告すると共に基金の意義やグリーンコープの参加型地域福祉の広がりを多くの組合員と共有するために、助成団体報告会を開催します。ぜひこの機会に、100円基金について学んでみませんか。多くの方のご参加をお待ちしています。

日時：2022年2月28日(月) 10時30分～12時15分

会場：オンライン開催(Zoom)

申込方法：1月17日週に、注文書と一緒に配布するチラシをご覧になりお申し込みください。

申込締切：2月11日(金)

問い合わせ先：☎096-324-8143(月～金 9時～17時)

基金事務局 沖仲まで。



2020年度のオンライン報告会の様子



グリーンコープ生協くまもと20周年記念企画 大橋成子さんとの対談インタビュー

2001年3月に誕生したグリーンコープ生協くまもとは、今年で20年の節目を迎えました。「グリーンたいむ」では20周年記念を特集し、グリーンコープ運動を続けてきたこれまでの歩みや、「今」の人気商品ランキングなどを、5回にわたって連載します。30年周年に向けて、さらにグリーンコープの輪を広げていきましょう！

11月19日(金)、大橋成子さんを講師にお迎えし、「fromネグロスセミナー」をオンラインにて開催しました。組織・環境委員会は、大橋さんのお話を最後に語り継いでいきたいと考え、セミナーの後に対談の場を設け、インタビューしました。ネグロスバナナや民衆交易について、これから先も長く語り続けていきます。



グリーンコープ
共同体顧問の、
大橋成子さん



上段左から大橋さん、森田弓沙委員長、寺田俊さん (ATJ)、木村由美さん
中段左から杉本香さん、有働礼子さん、久保智絵美さん、米森美奈さん
下段左から田中仁美さん、田中憲司さん、堀部珠梨さん、広報室

大橋成子さんのプロフィール

1955年、北海道旭川市に生まれる。78年、大学卒業後、アジア太平洋資料センター (PARC) の専従スタッフになる。79年から英文雑誌AMPPO (PARC発行) の編集長、80年からPARC事務局長を務める。91年、(株)オルター・トレード・ジャパン (ATJ) (※①) 入社。91〜94年、「バナナ村自立開発5ヶ年計画」を担当。94〜07年、日本ネグロス・キャンペーン委員会 (JCNC) の現地駐在員となる。08〜12年、APLA (※②) ネグロス駐在員。17年、グリーンコープ共同体顧問。

初めて日本のこと、自分の置かれている恵まれた境遇がわかってきて考える。そして身も心も解放されていく。私にとっても、こうした子どもたちの変化が、心のクレンジング作用になってますね。汚れてしまった心がクレンジングされる。「心がキレイになった」と思うんですよ。

米森さん

大橋さんが今まで一番大変だったことは何ですか？

大橋さん

悩んだことと言えば、ネグロスに駐在しているといういろいろなことを期待されるんですよ。日本から「農地改革をすすめ、地域自立を」と言われても、現地では早々に変革できない事情がたくさんあった。また、「自立」を求めながらも、どうしても援助のお金が絡むと人によってはその「依存病」になるケースもあった。また「金持ち日本」という意識もなかなか変わらなかった。でもグリーンコープがすすめてきた組合員や高校生のツアーで直接人が会い、信頼関係が生まれると、その意識が変わってきたんです。だからこそ、今では「グリーンコープからのカンパ金は絶対に無駄にはいけない」と、みんな言っています。こんな取り組みをしているのはグリーンコープしかないです。

久保さん

日々の中で大橋さんが大切にしていることは何でしょうか？

大橋さん

グリーンコープに行くこと、「自己表現」と

ネグロス島についてアレコレ

「青少年ネグロス体験ツアー」について



森田さん

この度は対談に応じただき、ありがとうございます。組合員の皆さんがまだ知らない大橋さんをお届けできたらしらと思っております。まずは、組合員の家族(高校生)が参加する「青少年ネグロス体験ツアー」について教えてください。

大橋さん

91年に兼重正次さん(※③)から「現地の農村の様子を伝えてほしい」との依頼があり、「ネグロスセミナー(学習会)」が始まりました。そして「ぜひ子どもたちを行かせたい」ということになり、企画書を提出しました。組合員主体のグリーンコープですから、理事会で十分検討された後、組合員が参加する「ネグロス組合員ツアー」や、組合員の子どもたちが参加する「青少年ネグロス体験ツアー」が始まりました。この2つのツアーと「ネグロスセミナー」は、なんと2021年で30年目を迎えました。青少年ツアーは、毎年3〜4の単協から10人前後が参加して、3年続けて1年休むというローテーションでした。最初は、中学生と高校生対象で始まったのですが、中学生はどうしても現地の状況を理解す



杉本さん

グリーンコープ以外で、ネグロスを支援している団体などありますか？

大橋さん

APLAにつながる日本各地の市民運動があります。また、オランダのNGOが水対策の技術協力をしています。

田中さん

私にとって、ネグロスと言えばバナナなんですけど、生活のために他の作物

るには成熟度が違うため、最終的に高校生を対象にしました。現地と日本からの参加者は同じ人数にして、男女比も揃えました。大方が組合員である母親から背中を押されて参加していますね。印象に残っていることと言えば、15年前の子どもと、現在の子どもでは違ってきてるように思います。以前は、現地の人の話を一生懸命聞こうとする姿勢がありました。メモを取って理解しようとしていた。今は、ネグロスの人を置かれていた状況を聞いても、想像力が持たなくて、質問する力も足りなくなってきたと感じます。

でも、ツアーを通じて人が優しくなれます。仲良くなるにつれ、境遇がわかってくるんですよ。日本から参加してきた高校生に「あなたの夢は何？」と聞いた時、答えられない子が多いんです。帰国後に具体的なことが出てくるようですよ。現地の子は必ずと言っていいほど「親を助けたい」「兄弟を学校に行かせたい」と言います。それを聞いて、自分を振り返る機会になるんですよ。『そこそこ幸せに』とか『ビル・ゲイツのようになりたい』とか言う日本の子ども、ネグロスマジックにかかるといっつか、国外に出て

も作っているんですか？

大橋さん

民衆交易の品種バラゴン以外に、いろんな種類のバナナや果物さとうきびだけに頼らない、作物の多様化をすすめています。灌漑設備が整備すれば、米が収穫できますね。とうもろこしや、日本で穫れる夏野菜のほとんどはありますよ。「カネシゲファーム」のようにBMW技術を用いた養畜に取り組んでいる人たちもいます。

杉本さん

ネグロスの皆さんは、クリスマスはどう過ごすのですか？

大橋さん

キリストの誕生日。クリスマスにとって喜びの日なので、9月頃から「クリスマスが近くなった」と、本当にウキウキしていますね。砂糖の収穫期でもあるので、経済的に潤うんです。農村では、白いペンキで木を塗って「ホワイトクリスマス」。木の周りには白い石を集める。色水を透明の袋に入れて木の枝に吊るし、昼間の太陽の光が入ってキラキラするのをライトアップの代わりにするなど、工夫を凝らしてデコレーションしていますよ。伝統料理のレチョン(豚の丸焼き)などがテーブルに並んで賑やかです。

※③兼重正次さん…84年の世界的な砂糖価格の暴落でネグロス島が「飢餓の島」となり、86年には救援団体として「日本ネグロス・キャンペーン委員会 (JCNC)」が発足し食料や衣類の緊急援助が始まり、87年にマスコバド糖の輸入を開始したが、そのネグロスとの民衆交易の成功・発展に大きく貢献し、連帯の礎を創った。当時グリーンコープ連合専務理事。95年没。

※①オルター・トレード・ジャパン (ATJ)…NGOである日本ネグロス・キャンペーン委員会 (JCNC) (現 APLA) の活動を基盤に、生協や有機農産物の販売グループ、市民団体が共同出資して立ち上げた草の根の貿易会社。ATJ が生まれたのは、87年に JCNC 他がネグロス島のマスコバド糖を輸入し始めたことがきっかけ。

※② APLA…アジアの人々の「農業を軸とした地域づくり」のためのネットワーク構築を目指して、出会いや交流の場の創造をすすめる NPO 法人。

「労働協同組合 ワーカーズ・コレクティブ ヒトハレ」誕生!

2021年11月27日設立! 2014年2月から「キープ&ショップ人吉」の
担い手を務めてきた「手とテとて」が、ワーカーズになりました。

2014年2月に人吉で誕生した「キープ&ショップ人吉」は、組合員数200人前後を維持するのがやっとでした。そんな中、2020年7月に豪雨災害が起き、球磨川沿いにあったショップは壊滅状態となりました。

震災直後からグリーンコープから多くの物資、人手、資金での支援をいただき、震災前からは考えられないほど多くの活動を私たちが担うようになりました。元氣カーによる移動販売や、元氣カーに載せる惣菜の製造、月1回の朝市の開催や仮設住宅での炊き出しなど。被災して不自由な思い、寂しい思いをされている人たちと接する機会が増え、「来てくれてありがとう」と言われると、自分たちの活動で「被災された人たちの気持ちがあっさり明るくなるならば」と、こちらが元氣をもらい、やりがいを感じました。

被災から1年が過ぎ、復興も徐々にすすんできていますが、まだ支援が必要な人も多いことをひしひしと感じます。そういった人たちに寄り添い、私たちの存在が地域の人たちの「ヒトハレ(東の間の晴れ間という意味の造語)になれれば」という思いから「労働協同組合ワーカーズ・コレクティブヒトハレ」を立ち上げることを決意しました。

今までは組合員の皆さんからのカンパ金に支えられてきた災害支援活動も、必要な人がいる限り持続していくためにも、キープ&ショップの供給増や組合員拡大などもっと力をつけ、人吉球磨になくなくてはならない存在を目指したいと思っています。



「ヒトハレ」の皆さん

代表 御園 豊子



仲間の花を咲かせよう

地域理事

県央西地域本部

日向 初美

わたしとグリーンコープ

「くまもと生協」が「グリーンコープ」になった時から、グリーンコープとの付き合いが始まりました。そして、委員になり多くのことを学んできました。知らないことへの「へえ、そうなんだ!」と感動する喜びも良いものです。関心のあることに加え、知らない分野を知る、自分を成長させていってほしいと思います。

現在はワーカーをしています。きっかけは配達時に入っていた「介護職員初任者研修講座」の1枚のチラシ。心の中では「介護は無理!できない!」との思いがありました。委員としての活動で、福祉のことを学び、研修を受けてみようかなと思いました。

知らない分野に飛び込む不安もありましたが、周りの人たちが助けていただき、1人ではないことを感じました。

こんにちは! ワーカーズです



ワーカーズ・コレクティブ
「食育の会わくわく」

園田 晶子

私たちは、グリーンコープの「食への運動」と子育て支援から始まった食育のワーカーズです。普段は地区や地域での子ども料理教室を中心に活動していますが、コロナ禍で活動中止を余儀なくされました。

その中で私たち食育ワーカーズにできることのひとつとして、リモートでの料理教室に挑戦しています。画面越しではありますが、親子で楽しんでいただければと思います。自分たちで作ったという達成感溢れる嬉しそうな顔が、私たち食育ワーカーズの活力です。

この飽食の時代、生きる力のひとつとして、皆さんに食育を伝えていければと思います。

早くこのコロナ禍が終息して、子どもたちとまた一緒に「わくわく♥」することができたら嬉しいな...と思っています。

みずほ銀行より、配食用小型電気自動車が増呈されました



10月28日(木)
八代市島田町 配食サービス「パセリ」にて

グリーンコープの福祉は、自分たちが高齢になった時、やっぱり家で暮らしたい、そのお手伝いができないだろうかと考え、家事手伝いサービスから始まりました。今ではデイスサービス(通所)や訪問介護、小規模多機能ホームなど、多くの福祉事業を行うようになりました。配食サービス「パセリ」(2000年3月)もそのひとつです。高齢者の在宅を家庭的な手作り弁当を届けることで支え、毎日を健康に過ごしてほしい...そんな思いでご利用者様一人ひとりの個別な要望に精一杯応えています。

16年前から八代市の委託事業も受託し、八代市社会福祉協議会(社協)とも強く結びつき、地域に根ざした愛される事業所になっています。

そしてこの度、八代市社協の推薦により、公益財団みずほ教育福祉財団の「配食用小型電気自動車「みずほ号」寄贈事業」に応募したところ、その活動が評価され「みずほ号」が贈呈されることとなりました。

人と人が支え合い、共に生きる。今後はさらに高齢者の見守りも含め、ますます地域に根ざした愛される事業所になっていくと思います。今回贈呈いただいた「みずほ号」は活躍すること間違いなしです!パセリの皆さん、頑張ってください!!



県南地域理事長 馬淵 早苗

「水俣・熊本みらい基金(つんなう基金)」を設立し、活用しています

2018年、グリーンコープ生協くまもとの各センターや、店舗、デイサービスセンターなど、全10ヶ所にソーラーパネルを設置し「熊本地震震災復興ソーラー事業」をスタートさせました。このソーラーパネルは、組合員の皆さんからお預かりした「グリーン電力出資金」を活用して作ったものです。その後「グリーン未来ソーラー」という名称が決定し、継続して発電事業を行っています。そして、その売電した収益の一部は、「全国ご当地エネルギー協会」が運営する「水俣・熊本みらい基金」(愛称:つんなう基金)として、地域の活性化や「いのち」を守る事業や活動に役立てています。くまもとからも基金の運用委員会に参加しており、毎年1事業に対して原則30万円の助成を行っています。

本年度は2021年11月10日(水)に、申請いただいた12団体へ「つんなう基金」をお届けしました。「グリーン電力出資金」は、このようにさまざまな場面で役立てられています。申し込みはいつでも受け付けていますのでぜひご参加ください。詳しくは、各配送センターへお問い合わせください。

「グリーンコープでんき」担当常務 中野 真哉



「グリーン電力出資金」
グリーンコープ生協くまもとの
出資状況

12/16現在 123,334,000円
目標 316,533,186円

「グリーンコープでんき」
グリーンコープ生協くまもとの
申込状況

12/16現在 728件
2021年度目標 1,000件

手続は簡単!



「グリーンコープでんき」
申込書請求は...

共同購入申込書の特別申込(4桁記入)欄に申込番号 **3995** と数量を記入し、ご提出ください



「Eプラントクマモト」代表 大隈正信さんのみかん園にて (玉名郡玉東町)

10月26日(火) くまもと主催で『Eプラントクマモト』みかん招待園を開催しました。「みかん招待園」とは、産直みかんの産地で収穫体験などを行い、交流する取り組みです。生産者と組合員との「顔の見える関係」を作り、産地について学び利用につなげることを目的に、単協、地域本部、地区が主催して開催しています。県内の「グリーンコープの子育てサークル」に参加を呼びかけ、参加したサークルメンバーの親子が、みかんの収穫を体験し、生産者と交流しました。

子どもも久しぶりの外での交流に、生き生きしていました。除草剤や腐敗防止剤を使わずに栽培されていることに改めて安心・安全を感じました。

参加者の感想より

1歳の我が子もトコトコ歩き回り、自分で選んだみかんを美味しそうに食べていました。親子でよい体験ができました。

初めてのみかん狩りだったけど、天気にも恵まれて、美味しいみかんを口いっぱい頬張って楽しい時間が過ごせました。

どの木のみかんが甘いか、食べながら探すところがおもしろかったです。直接生産者のお話を聞くことができ、貴重な時間を過ごせました。

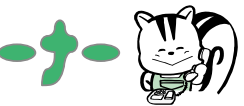
子どもがみかんをたくさん食べて、みかん大好きになりました！また参加したいです。



おたより募集

グリーンたいむでは、組合員の声を大切にした紙面づくりを心がけています。おたよりの内容はグリーンコープに関するものなら、何でもOK。お名前と連絡先(電話番号)と、所属の地区名または所属センターを明記の上、下記住所「本部組合員事務局」宛にお送りください。文字数は200字以内。ペンネームも可。掲載者には、いちおしのグリーンコープ商品を進呈しますよ。

みなさんからのおたより待ってます！



もしも電話コーナー

<p>お金の問題で困っていませんか？ まずはお電話下さい 生活再生相談室 ☎096-243-2100</p>	<p>開設曜日…月曜～金曜 第3週は月曜～土曜 開設時間…9時30分～18時</p>
<p>ふくし情報でんわ ☎0120-540-294</p>	<p>開設曜日…月曜～金曜(祝日は休み) 開設時間…10時～16時 携帯電話の方は096-337-7226</p>
<p>グリーンコープ 葬祭サービス 24時間受付・年中無休 ☎0120-222-782</p>	<p>「自然庵」との共同事業です。葬儀だけではなく、相続問題やお墓、供養、法事についての相談なども受け付けています。</p>
<p>GREEN くらしアップ情報誌「くまもと」 ☎0120-51-8141</p>	<p>自動車学校、引越しなど、お気軽にお問い合わせください。 受付時間…9時～17時30分</p>

編集者一同より
新年のご挨拶を申し上げます

◆ 今年こそは断捨離したい！ (上部)

◆ 今の家に住み始めて10余年。 (磯川)

◆ 寿ぎの美酒佳肴に酔臥して「春暁」の心地休日なれば (伊藤)

◆ 4月から新人とは言えない立場の3年目。気を引き締めて頑張る。 (伊藤)

◆ マスクをしないで過ごせる日常に、早くなりますように!! (菊川)

発行 グリーンコープ生活協同組合くまもと

発行責任/理事会
編集/広報室
発行所/〒860-0056
熊本市西区新土河原2丁目1-1
☎ 096-324-8118(代)
FAX 096-324-8123
印刷所/ホープ印刷(株)

■ 県北地域本部 13,035名
■ 県央東地域本部 27,057名
■ 県央西地域本部 17,730名
■ 県南地域本部 7,603名
合計 65,425名
(12月21日現在店舗組合員を含む)

グリーンコープ生協くまもとのホームページ (<http://greencoop-kumamoto.jp/>) に最新情報更新中！ぜひアクセスしてください。携帯電話は、こちらのQRコードよりアクセスできます。➡

